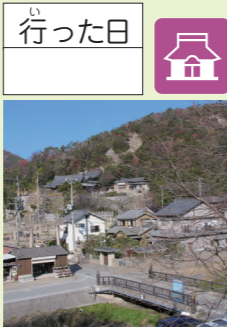


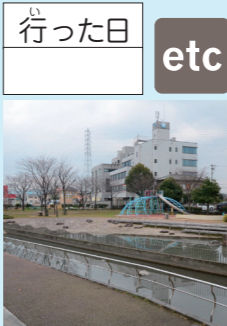
あらかわじんじや 荒川神社

昔、荒川神社の山のふもとを齋川が流れていたころ、岡田に水を引く入り口になるところが「井ノ口」といわれていました。お祭りの日には、鳥居道に町坪・中地・玉手・井ノ口の屋台が、北の参道には岡田・西庄の屋台が入ってきます。せまい道をたくさん通る屋台の様子に迫力があります。



おかだきたこうえん 岡田北公園

昔から漕川が流れていて、水があちこちでたくさん湧き出していました。北側の池では、昔は子どもたちが泳いでいました。今は、水に親しめるところを生かした岡田北公園になっています。南側の池は、水が枯れて、チビツ子広場になっています。



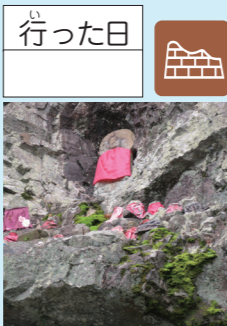
たまで やまぜんしやうじ 玉出山善正寺

播磨地方の真言宗のお寺の中でも建てられた時期が一番古いお寺の一つです。昭和62年(1987)に本堂と山門が建て直されました。玉手の周りには規模の大きな区画整理もできあがって、並木のある通りや公園など、新しいまちが広がっています。



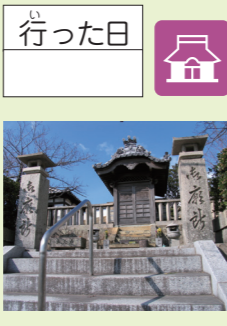
さいしやうじぞうせきぶつ 西庄地藏石仏(ガチャガチャ地藏)

南北朝時代の正平22年(1367)に建てられました。石仏の高さは90cmです。「普為法界衆生願主成西敬白」と彫られています。お地藏さまを西庄の裏山の岩場から村の中に移した時に、「ものところに戻りたい」とガチャガチャとゆれて音を出したのて元に戻した、と伝えられています。



せんぼほんとしじびやうしよ 船場本徳寺廟所

東のお山とよばれる京都の東本願寺の姫路別院である船場本徳寺は姫路城の殿さま本多忠政が建てたもので、殿さまが大事にしていたのでたいそう大きく発展しました。船場本徳寺の本堂を建て直すときにお墓が井ノ口に移されて、御山廟所となりました。

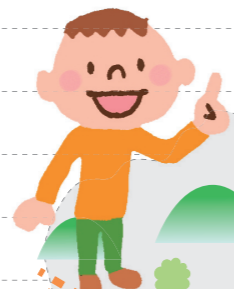



あらかわちく **17 荒川地区**

「中地」という地名は土地の特徴からついた名前です。地名の由来を知ることはおもしろいですね。他の地名の由来も調べてみましょう。



調べたこと、
分かったことを
書いてみよう!




行った日 

ちやうじじぞう 中地地藏

中地という地名は、湿った土地でもなく乾いた土地でもなく中ぐらいの土地であったことから、そうよばれるようになりました。お地藏さまの後ろには手柄山があり、前は湿った土地が多い場所でした。南北幹線ができた時に中地のお地藏さまも西に移されました。




行った日 

ちやうつごりんとう 町坪五輪塔

荒川地区の南西にある田んぼの端に五輪塔が見つかって、復元されています。天正8年(1580)、英賀の戦の時に亡くなった町坪弾四郎の骨をうめたところに建てた塔の跡と考えられ、今でも供養するためにお花が供えられています。




行った日 

つちやまはちまんじんじやあきまつ 土山八幡神社秋祭り

境内には保存樹の「くすの木」があります。例祭(百膳祭)では、子供神輿が華やかに境内をめぐる。昔はドンコ祭といわれ、夜には「仁輪加」といって素人役者が出演する芝居が人気でした。また、神社の南30mのところの石の大鳥居がありました。




行った日 

とまみちくにぬしじんじやあきまつ 苦道国主神社(秋祭り10月第2日曜日)

まつられている苦道国主大神は、このあたりを開発した地主神です。昔からこの場所にまつられていました。お旅所からは播磨灘の海が見わたせて、とてもすばらしい景色です。秋祭りの日には、苦編、西苦編の住民が集まり、屋台を練り上げます。



行った日 

ぶつにちまんほうりんじ 佛日山法輪寺(秀吉ゆかりの湯沢山茶くれん寺)

秀吉が英賀城を攻める途中で、普通の侍のかつうで立ち寄って、お茶がほしいと頼んだのにお湯しかもらえませんでした。そのあと、自分の正体を明かした秀吉が、「湯沢山茶くれん寺」という名前をつけたと伝えられています。

